

TID修了生インタビュー

Vol.3 小野寺峻一さん（岩手県タレント発掘・育成事業1期修了生）



小野寺峻一さん

筑波大学大学院 在学中

いわてスーパーキッズ発掘・育成事業スタッフ
いわてスポーツアカデミースタッフ

スポーツ歴

水泳（幼少期～中1）
バスケットボール（小5～中3クラブ・部活動）
スピードスケート（高1～現在）

競技実績 （スピードスケート）

国民体育大会 成年男子 2000mリレー
6位(2016)、7位(2017)、8位(2020)
全日本マスターズスピードスケート競技会
(2020) 1000m 3位(Aクラス)、1500m 1位(Aクラス)

TID 修了後の進路

岩手県立盛岡第三高等学校卒業
岩手大学（教育学部スポーツ教育コース）卒業
岩手大学大学院（教育学研究科）修了
筑波大学大学院（人間総合科学研究群コーチング
学学位プログラム）在学中

Q. いわてスーパーキッズについて教えてください

応募のきっかけは「自分の限界や能力を知りたかった」から。

人より体格は小さかったのですが、幼少期から”何かに挑戦したい”気持ちは人一倍強かったのだと思います。TIDで自分に合った競技を見つけて、どこまで上を目指せるか試したいと思って応募しました。

様々な競技を体験できたことが一番面白かった。

スピードスケートとの出会いも競技体験プログラムを通じてですが、ボクシング、アーチェリー、クライミングなど、他にも多くの競技に出会い、挑戦しました。どの競技も日本代表クラスの選手や指導者から直接ご指導いただき、世界で戦うアスリートの技と熱い想いを肌で感じることで、「世界に挑戦したい」という気持ちがより現実的になり、その目標へ向かう活力になりました。

Q. 大学・大学での活動について教えてください

アスリートとして成長するためにも勉強は必要だと思っていました。

もともと教員になりたいと思っていたので、その為に進路を選択し、スピードスケートのトレーニングと並行して勉強も行っていました。アスリートとして成長するためにも勉強は必要だという考えも、いつの間にか身につけていました。

TIDで学んだ“積極的に挑戦する”精神で大学在学中に起業しました。

“積極的に挑戦する”ことをTIDで学べたことは大きかったと思います。大学在学中に「学生カンパニー※1」で起業したのも、新しいチャンスを目前にし、「挑戦するしかない！」と思ったからです。商材はスピードスケートのブレード※2を研ぐ砥石の開発です。自分は技術者ではありませんでしたが、専門知識のある人と協力することで可能性を見出せると思い、先輩と組んで立ち上げました。スケートは靴についてのブレードで滑りますが、ブレードを砥ぐ必要があります。しかし研磨道具は価格が高く、大きく重く扱いが難しいため、自分で所有できない選手が大勢います。学生等でも気軽に扱える砥石を開発し、競技力の向上につなげたいと思い選びました。現在は、代表を退任し、アドバイザーとして他種目への応用や他製品の開発・研究を継続しています。

※1 学生と企業との共同体が学内に設置した仮想的な会社

※2 スケート靴の刃の部分

Q. 大学院に進学されたきっかけを教えてください。

研究や指導の分野でも「世界に挑戦したい」と思い大学院に進学しました。

大学生までスピードスケートで世界に挑戦していましたが、今度は研究や指導の分野でも世界に挑戦したいと思い、大学院への進学を決めました。

現在は「タレントの発掘・育成・強化」を軸に、育成システムを研究しています。タレント生としての経験、地域TIDにおける指導者としての経験を通じて、適切な時期に、適切な環境で、適切な指導を受けて目標とする舞台に挑戦、活躍できている選手に多く出会うことができ、タレント発掘・育成の意義を感じています。しかし一方で、自分なりに「もっとこうしたい」「もっとサポートしたい」という想いも強くなりました。今後は、一人でも多くの子どもたちが、楽しくスポーツに取り組み、本気で夢を追える場を整えたいと思っています。

～ 地域TIDタレントのみなさまへ贈る言葉 ～

「自分」と「仲間」を大切にしてください。

私の恩師は、「人間は誰の言うことを一番聞きますか？」とよく問いかけます。タレント生として間もない頃は、「親かな…？神様かな…？」とっていました。しかし今は、「自分だ！」とはっきり言えます。なぜなら今何をするか、何をやめるか、果ては命に関わることも最後は自分で決めることができるからです。夢がオリンピックなど世界で戦うことなら、今何をすべきか、トレーニングや食事、休養についてたくさん学んでいると思います。それを活かすのも自分の行動次第です。私は、大好きなバスケットボールを周りの人のサポートで続けていましたが、身体的な課題もあり、世界を目指すのが難しいことは自分がよくわかっていました。しかし、競技を変えたいと切り出すことが、なかなかできませんでした。その時、もう一度、なぜタレント発掘・育成事業に応募し、タレント生になったのかを思い出しました。それは、『世界に挑戦したい』という自分の想いでした。今は、自分の決断を大切にしておよかったと思っています。自分に正直に、自分を大切に頑張ってください。

私の同期には、スキージャンプ世界王者の小林陵侑選手がいます。彼は、私の尊敬し目標とする仲間であり、支えです。近況を報告し合ったり、夢について語ったり、今でも刺激し合える仲間です。貴重な経験、時間を共有しているタレント生の仲間を大切に、家族や先生、コーチへの感謝を忘れずに、自分の夢、仲間の夢を実現できるように、今できることに最大限の努力を注いでください。



～ 将来の夢 ～

子どもたちや選手と一緒に挑戦し続けること！
スポーツでみんなをハッピーにすること！